

異文化圏に暮らすムスリムの食、 非ムスリムによるハラールビジネス

ムスリムにとってハラールな飲食物の確保は重要な問題である。ムスリム(イスラーム教徒)市場をターゲットにしたビジネスは世界的に注目を集め、非イスラーム圏である日本でも、ハラール認証やハラールロゴの取得を考える企業も少なくない。

しかし、ムスリムに飲食を提供するためには、認証さえとればよいというものではない。認証がなくても、ハラールと考えられる食べ物を自ら選び取って食べることもあれば、逆に認証がある食べ物でも、認証の信用性や食嗜好の問題から食べられない場合もある。「ハラール」という言葉が包含するのは、食材や加工工程の問題だけではない。

異文化のもとに暮らすムスリムの生活実践、社会主義の影響をうけたムスリムの食生活など】の事例や、非ムスリム圏である日本のハラールビジネスの事例から、ハラールとはどのようなことなのかを議論する。

開催日時 2015年3月7日(土) 13:30~17:40(開場13:05)

会場

〒108-0023東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター2階 多目的室2
JR田町駅 芝浦口をでて右手すぐ。車でのご来場はご遠慮ください。

受講料

無料(要申し込み)

申込方法

ぐるなび寄附講座のウェブサイトからお申し込みください。

<http://www.mot.titech.ac.jp/food/>

定員: 50名

申込締切: 2015年2月26日

*頂きました個人情報寄附講座イベントの参加者管理の目的以外には使用致しません。

*事前申し込みをしていない場合でも、当日、会場に余裕があればご参加いただけます。

＜問い合わせ先＞

東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科

「ぐるなび」食の未来創成寄附講座(担当: 瀬下・阿良田)

TEL: 03-3454-8705/FAX: 03-3454-8973

メール: gnavi.titech.kifu@gmail.com

主 催: 東京工業大学「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 食文化共同研究会

第一部 13:30-15:20

第1講義 阿良田麻里子 東京工業大学「ぐるなび」食の未来創成寄附講座特任講師

「ハラールの基礎とインバウンドビジネスにおけるムスリム対応」

ハラールとは何か。基礎的な概念を振り返るとともに、日本国内の対応事例を紹介しながら、特に東南アジアのムスリム観光客受け入れを目指すインバウンドビジネスにおいて真に必要とされていることはなにかを考える。

第2講義 砂井紫里 早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手

「ハラールメニューをつくる 早稲田大学学生食堂におけるハラール導入の事例から」

早稲田大学の学生食堂では、2012年4月からハラールメニューの提供が始まった。ムスリム学生がともに取り組んだハラールメニュー導入のプロセスを通して、ハラールとは何か、対話と情報公開の重要性について考える。

第3講義 今堀恵美 東京女学館大学・聖心女子大学ほか非常勤講師

「旧ソ連領中央アジアムスリムの食と信仰 ウズベキスタンの事例を中心に」

中央アジアのムスリムは社会主義的制約の中で信仰に基づく食習慣をいかに形成してきたのか。約70年間の社会主義時代、公の場での宗教行為の実践は困難であったが、家庭内ではイスラーム性を保持しようとする傾向も強かった。食は公私をまたいで行われる行為であり、社会主義とイスラームが拮抗し融和する場でもあった。

第二部 15:35-17:40

第4講義 スリ・フディ・レスタリ
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同研究員

「佐賀県のハラール対応事業および県在住のインドネシア人ムスリムの食」

佐賀県にはモスクもハラール食品店もない。2008年の中東への未検疫牛肉持ち込み事件を端緒としてハラールの問題に目覚めた佐賀県のハラール取り組み事業を紹介するとともに、佐賀県在住のムスリムの食生活を報告する。

第5講義 山口裕子 岡山大学大学院社会文化科学研究科客員研究員

「岡山でのハラール食品をめぐる諸動向 手作りハラール肉とハラール土産品」

ムスリムの非集住地域である岡山県を中心に、非ムスリムの日本人を取り込んで展開した手作りハラール肉製造販売の経緯とその後の展開、近年の地元企業によるムスリム旅行者向けハラール土産品生産の動向を報告する。

コメントとパネルディスカッション

コメンテーター マリア・ヨトヴァ 国立民族学博物館外来研究員

18:00～19:00 講義終了後そのまま会場で簡単な懇親会を行います。
会費500円を当日お支払いください。